



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

令和4年度 No.3 第141号 令和5年1月26日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋藤洋平
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <https://toyama-ot.org/>
富山県作業療法士会会員数：684人

第20回 富山県作業療法学会

テーマ

自分の強みを生かす

～ブレない個々への成長、此処からの広がり～

プログラム

特別講演

『作業療法士のキャリアデザイン

～あなただけの生き方・働き方を見つけよう～』

高木 綾一氏 (株式会社 Work Shift 代表取締役、理学療法士)

シンポジウム

『職場でも、地域でも、家庭でも、「私はOT」です』

赤尾智子氏 (富山赤十字訪問看護ステーション)

『気づきから、自分の強みに繋げる』

浜出都氏 (特別養護老人ホームつまま園)

『異文化経験を生かす』

渡邊純子氏 (ヴィストカレッジ訪問支援とやま)

会場

新川文化ホール 小ホール
(ミラージュホール) 〒937-0853 魚津市宮津 110

参加費

会費 2500 円 (日本作業療法士協会または富山県作業療法士会)
その他の OT3000 円 他職種 1000 円 学生 500 円

学会長

飯田 朱美 (池田リハビリテーション病院)

2023年
2/26
(日)

9:50 ~ 16:30

ハイブリッド開催
(現地+Live 配信)

事前参加登録



現地での参加登録や参加費の
支払いは実施しません

プログラムと出張伺いは
学会のホームページから
ダウンロードしてください。

<https://forms.gle/CyrSBxGTknHPt1Wg9>

事務局 富山ろっさい病院 〒937-0042 富山県魚津市六郎丸992
TEL: 0765-22-1280 FAX: 0765-22-5475 E-mail: toyamaotgakkai@gmail.com

主催
一般社団法人 富山県作業療法士会

後援
富山県、魚津市、(公社)富山県医師会、(一社)魚津市医師会、(公社)富山県看護協会、富山県介護老人保健施設協議会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県理学療法士会、(一社)富山県介護福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県言語聴覚士会、富山県公認心理師協会、富山県ホームヘルパー協議会、富山県医療ソーシャルワーカー協会、(一社)日本作業療法士協会、(公社)石川県作業療法士会、(一社)福井県作業療法士会、(一社)富山県介護支援専門員協会

第56回日本作業療法学会に参加して

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 丸池 駿介

9月16日から18日に開催された第56回日本作業療法学会にて発表をさせていただきました。今回は京都の国立京都国際会館を会場とされており、オンラインでも参加可能なハイブリッド形式で開催された学会でした。私も現地で参加したかったのですが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、オンラインでの参加となりました。

私の発表内容としては大学院の修士課程で行っていた研究である、脳卒中患者の作業機能障害の尺度研究について発表をさせていただきました。大学院内での発表とは違い、初めて研究について聴講して下さる方々へ向けて研究の要点をまとめて、伝わりやすく内容をまとめることはとても勉強になりました。また会場での発表ではなく、オンラインでの発表のためPCに音声を録音することを経験して、より端的な表現で説明をする大切さを学びました。オンラインにて参加をして、他の方の発表を聞かせて頂き、研究で臨床の疑問を解明し、臨床に反映させていく大切さを再確認できる貴重な経験となりました。

また、私の研究は現在もデータを募集中ですので、脳卒中を呈した対象者様に関わる、亜急性期から生活期の医療機関や施設の作業療法士の方で、協力して下さる方がおられましたら、ご連絡いただくと嬉しいです。

今回の学会参加は自宅で講演や発表を聴講しました。やはり現地で県外の作業療法士の方々とコミュニケーションが取れないことや、発表会場での臨場感を体験できなかったことはとても残念に感じました。しかしその反面で家族との時間を確保しつつ自宅で受講できたことや、オンデマンド配信されたため、後日空いた時間で様々な講義を聴講できたことは新型コロナ以前の学会では出来なかった受講方法だと感じました。ハイブリッド開催という学会の形式は、遠い県外への渡航が難しい方や数日間も自宅を開けられない等の理由で学会参加が出来ない方たちにも学会参加できる機会を提供出来ていると感じました。今後もハイブリッドの形式が継続されて、県外の学会に参加できていなかった方もハイブリッド形式の学会へ参加して研鑽や活躍に繋がる機会になるのではないかと感じました。

とは言え、私個人としては現地に参加して多くの作業療法士とコミュニケーションを取ることや現地の美味しい食べ物やお酒などを楽めることが恋しく感じてしまいました。この先、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた際には、また日本作業療法学会などの大きな規模の学会に現地で参加したいと思っています。そのためにも日々の臨床と自身の研究を出来る範囲で継続していこうと感じた学会参加でした。

東海北陸リーダー研修会に参加して

厚生連高岡病院 向 慎司

10月22日(土)にWebにて東海北陸リーダー研修会に富山県として5名参加してきました。講師には中村春基会長、福井大学医学部名誉教授の寺澤秀一先生より講義とグループ討議を行い、他の県土会員と職場の現状や悩みごとなどを話し合ってきました。

グループ討議では「県土会活動の新しい取り組み」「10年後の県土会の姿」との内容で他の県土会から独自に地域認定士を設け研修会を実施していることや、一人職場で横のつながりが少なく不安に思うこと、情報発信のための工夫していること(SNS・広報活動)などの状況を知ることができました。OTとして地域に役に立つ職種であることを証明するために奮闘している様子が伝わってきました。また寺澤先生からは3事例の困り事を提示され

グループ討議を行い、「新人指導」「医療安全」「患者説明」「キャリアアップ」に対する考え方やコーチングの必要性を学ぶことができました。

リーダーと言われると「自分が？」や「どんなリーダーがいい？」「なにをするの？」など参加前は不安な気持ちが多くありました。また、徐々に上司の立場となっていることへの戸惑いもあり、自分が今後何を身に付け、何に気をつけるのかを知る機会となりました。職歴を重ねることで失敗からどんな対応がよかったのか、発言してしまった言葉の後悔など、多くあると思います。研修依頼が回ってきたときは積極参加してみてください。少しだけ、軟らかい対応ができるようになりました。

第21回東海北陸作業療法学会に参加して

新潟リハビリテーション大学 丁子 雄希

令和4年11月13日(日)に、松阪中央総合病院の田中一彦氏が学会長のもと、「第21回東海北陸作業療法学会・第33回三重県作業療法学会」がオンラインで開催された。学会テーマは「伝えよう！作業療法の魅力～健康を支える作業の力～」であり、公開講座「認知症とともに生きるみんなでチャレンジ！夢と友情をつなげるサーフィンプロジェクト（希望の灯り 下菌誠）」、基調講演「作業の力で支える、その人らしい終焉（関西医科大学 三木恵美）」、シンポジウム「活動・参加支援の実践～旅行の実現に向けて～（米津歩、益満美寿、伊藤玲哉）」など、地域における作業療法の展開についての話題提供が主であった。また、様々な領域におけるスキルアップセミナーや教育講演も用意されており、新人や中堅の作業療法士にとって充実した学びの場となっていた。私自身は、一般演題で「脳卒中

患者に対する作業療法介入プロセスモデルの実行可能性」というテーマで発表してきた、私達作業療法士はクライアント中心の実践が求められますが、臨床現場の様々な要因により、導入しづらいことがあるかと思えます。そこで、本報告では、対象条件を選定したのちに、クライアント中心の代表的なモデルである作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）を実施したところ、1週間の短期の介入でクライアントの作業遂行に改善が認められました。また、作業療法士とクライアントの協業関係の度合いによっても、訓練効果に差異が生じました。発表後において、フロアから様々なご意見をいただきとても実りのある機会となりました。

次回の東海北陸作業療法学会は令和5年12月9日(土)～10日(日)に岐阜県で対面開催を予定していますので、ぜひ多くの参加を期待したい。

第21回東海北陸作業療法学会

脳卒中患者に対する 作業療法介入プロセスモデルの実行可能性



新潟リハビリテーション大学 丁子雄希

岡山医療専門職大学 小林隆司

Choi Y, Kobayashi R. Preliminary analysis of the clinical feasibility of a practice intervention derived from the occupational therapy intervention process model for patients with stroke in the convalescence stage. *British Journal of Occupational Therapy*. 2022;0(0). doi:10.1177/03080226221135373
(本報告の詳細が記載されています。興味のある方はどうぞご覧ください。)

富山県作業療法士会から会員各位へのお願い

会員用メールリストで情報提供させて頂きましたが、下記内容につきまして今一度情報共有して頂きますよう宜しくお願いします。

富山県作業療法士会長 齋藤 洋平
倫理委員会 丸本 薫

研修会資料等の第三者への提供について

当会の研修会で配布された資料が、フリマアプリで転売されていることが確認されました。本件は、研修会の講師が、ご自身で確認され、出品者に削除依頼を出されています。当該研修会には、会員以外の参加もあり、当会員が流出したと断定したわけではありませんが、当会が主催した研修会後に、講師のご厚意で配布された資料が流出したことは事実です。場合によっては、法的措置や倫理問題の対象となりますので、心当たりがある方や情報をお持ちの方は、士会事務局へ連絡をお願いします。今後、会員のみなさんは、このようなことが起こらないよう、管理を徹底していただくとともに、社会的な信頼のある職能団体としての組織づくりに御協力をお願いいたします。

事務局
(一社)富山県作業療法士会事務局(担当:島津)
E-mail:toyamaken.ot@gmail.com

表記の内容を県士会 HP にてご案内しておりますので、皆様必ず一読していただき、情報をお持ちの方や心当たりのある方は、早急に県士会事務局へご連絡いただきますよう、宜しくお願い致します。

リハビリテーション(総合)実施計画書の正しい運用方法と法令順守について

今一度、実施計画書の目的や正しい運用方法について確認し、患者様への不利益とならないように注意をお願いします。また、東海北陸厚生局の医療監視においては、特に確認される項目となることが予想されますので、皆さまの職場で情報共有をお願いします。

岐阜新聞Web 10/15配信

大垣市民病院（岐阜県同市南瀬町）でリハビリテーションを担当する作業療法士が治療の際、「リハビリテーション実施計画書」と「治療関係同意書」の本人署名を患者に無断代筆していたことが14日、病院への取材で分かった。病院は経緯を調査中で、今後、患者に説明と謝罪をすとしている。

病院は代筆について認め、署名が困難なケースではなかったとしている。患者については「プライバシーの観点から公表しない」と説明した。

実施計画書は、患者の状態や治療方針が明記され、診療報酬の算定に当たり作成される。同意書は治療を進めることを確認する文書。いずれも原則、患者本人か家族が署名する。

同病院の担当者は「患者本人に説明する場を設けたい。調査結果を踏まえて再発防止策を示したい」と話した。

日々業務の中での法令遵守を皆様十分ご理解されているとは思いますが、今一度ご確認いただきますよう宜しくお願い致します。

オンライン新人交流会に参加して

流杉病院 柿岡 美紅

令和4年9月24日に新人交流会がZoomで行われました。内容は講演、質問コーナー、グループに分かれての自己紹介でした。

講演では、始めにリハビリテーションとノーマライゼーションのお話がありました。リハビリテーションの原点となる部分について学ぶことができました。実際の症例のお話もあり、症例の経過からどのような関わりを行ったかまでを聞くことができ、貴重な機会となりました。

質問コーナーでは、理事や先生方が一つ一つ丁寧に回答していただき、臨床で参考になる内容が多くありました。新人同士で困っている内容を共有することで新たな考え方も知ることができました。

グループに分かれての自己紹介では、所属、名前、ハマっていることなどを発表し合いました。初めて顔合わせの方もいて緊張しましたが、話していくうちに和やかな雰囲気となり緊張がほぐれました。

今回の新人交流会では、全体を通して先生方や新人同士の話を聞く機会が沢山設けられており、充実

した時間となりました。知識不足な新人のために熱心に指導していただき、作業療法士としてさらに努力し、より意味のあるリハビリを提供できるように経験と勉強に励みたいと思いました。

コロナ禍で直接的な交流が難しい中でこのような会を開催していただき、県士会員同士の繋がりを深めることができたことを嬉しく思います。

開催するにあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



第23回滑川ほたるいかマラソン給水ボランティアに参加して

西能みなみ病院 平 優里亜

令和4年10月9日(日)に滑川市が主催し、4年ぶりの開催となる「第25回ほたるいかマラソン」が開催されました。第17回より「OTの普及」「社会貢献」を目的に、給水ボランティアに県士会員の皆さんが参加されており、今回私も初めて参加してきました。

今年は県士会員からは10名が参加し、大町公民館前で給水業務を行いました。大町公民館前は開始約12km地点で住宅が集まっており、当日は天気にも恵まれていたため、地域の方々も沿道で応援されていました。

例年、スポーツドリンクは希釈して提供していましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染対策としてペットボトルから直接、水やスポーツドリンクを紙カップに注いで提供するのがボランティアの内容でした。途中スポーツドリンクの香りに誘われ、蜂がたくさん乱入するハプニングに見舞われましたが、県士会員で協力して対応することができました。一度に大勢のランナーの方々が押し寄せる場面では、スポーツドリンクや水が不足しないか常に注意を払ったり、人の手が不足している机に応援に行ったりと、慌ただしく活動していました。

給水業務を行う中でランナーの方々へ声援を送ることで、「ありがとう」や「ご苦労様です」、「頑張ります」など声をかけ返していただくことができました。それにより、こちらにも更に応援に熱が入り、「どうすればよりスムーズに渡せるか」「効率よく業務を行うにはどうすればよいか」など、1つ1つ心がけながら取り組むことができました。

今回参加するにあたり最初はどうできるかや不安を感じていましたが、実際に行ってみると多くの方々の一生懸命な姿を見られる場であり、ボランティア後には達成感とともに充実感を得ることができました。これからは継続して多くの県士会員に参加していただければ良いと思いました。



災害リハビリテーション委員会の活動報告



令和4年度 災害情報伝達訓練結果報告

アルカディア氷見 高林 一彦

会員の皆様には、災害情報伝達訓練（以下、災害訓練と略す）に毎年、参加協力していただき、大変感謝しております。

毎年行っている災害訓練は、今年度で6年目となります。今年は9月26日(月)11時に災害発生をメーリングリスト（以下MLと略す）にて発信し、翌日の19時をもって情報伝達を締め切り終了しました。

結果は、126病院・施設（全病院・施設の68%）、224名（会員全体の33%）の会員の方々から連絡をいただきました。（表1）

病院・施設連絡件数及び連絡比率においても連絡網を活用して情報収集していた3年前を大きく超えて情報が集まるようになってきました。（表2）

MLを活用するようになって、まだ3年目ですがML登録率が飛躍的に伸びてきており、今年度9月時点で会員の約72%の方が登録されています。それにともなって災害訓練の情報返信率も毎年確実に伸びてきている状態です。ただ残念なこ

とに、ML登録率の飛躍的伸びに比べるとややML登録者の返信率が伸び悩んでいる傾向にあります。（グラフ1）

実際、ML登録者の返信率は、昨年と比較して57%から46%に落ち込んでいる現状にあります。（表1）

次年度以降に関しましては、ML登録者の連絡率そのものを上げていくことを課題にして、災害訓練1ヶ月前よりMLにて繰り返し訓練の告知をし、ご協力をお願いしていきたいと考えています。また、同時にMLに登録されていない会員の方々のためにホームページからも被害情報入力ができることを繰り返し発信していきたいと考えております。

この情報収集は会員の皆様の安否及び県内の被害状況を把握することで、早急に士会としての対応を決定していく大きな判断材料となることを深くご理解していただきたいと思っております。

また、会員の皆様には、広く地域での防災活動にも目を向けることで、自分を守り、家族を守り、地域住民として作業療法士として災害に対してどのように備え、どのように向き合っているかを共に考えていってほしいと思っております。

表1

	総数	連絡数	比率(昨年度比率)
会員	682名	224名	33%(29%)
病院・施設	185施設	126施設	68%(57%)
病院・施設者会員	652名	214名	33%(29%)
自宅会員	30名	10名	33%(21%)
ML登録者	490名	224名	46%(57%)

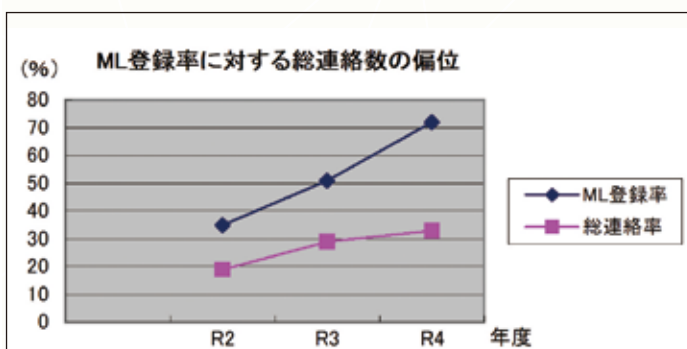
令和4年9月末現在

表2

病院・施設連絡件数年度別推移

	連絡件数	比率
H29(連絡網活用)	84	55%
H30	100	59%
R元	101	60%
R2 (ML導入)	76	44%
R3	102	57%
R4	126	68%

グラフ1





災害研修会に参加して

万葉病院 藤田 華奈

富山県で生まれ育った私はまだ大きな災害を経験したことがありません。もし、富山県で災害が起きた時、作業療法士としてどのような行動、支援ができるのか、災害に関する知識を少しでも深めたいと思い今回の研修を受講しました。

今回の研修会では2021年の7月に起きた静岡県熱海市の熱海土砂災害での活動についての内容でした。

“JRAT”という医師やリハスタッフで構成されたチームと県内の療法士（PT、OT、ST）で構成されたリハチームの活動を主に紹介されていました。よくニュースなどで目にするのは学校や公民館などを避難場所として使われているイメージがありますが、観光地の熱海で起きた災害だったため、避難場所として使われていたのは旅館が多かったそうです。学校などの避難所と比べると旅館だと個室ですし、プライバシーが守られている分ストレスも少ないのではと思いながら話を聞いていましたが、敷居の高い旅館がゆえに高さのある浴槽でまたぎ動作が大変だったり、普段自宅でベッドを使用している高齢者の方の部屋に布団しかなかったりと普段と違う生活環境は高齢者の方にはかなり負担になっていたそうです。

研修会では避難所でのリハチームの支援活動をいくつか紹介されていましたが、特に印象に残っているのは、避難所での生活環境の調整や工夫についてです。要援護者の居室へ訪問しトイレやお風呂などの使用方法、移動方法の評価をし、安全に動作を行えるように助言をしたり、福祉用具の提案、段ボールベッドの適応判断と適応後の評価

をしたりなどリハ職の知識が実際の現場でも活かされていました。ただ、場所によっては、避難所の責任者の方に“勝手に変えられたら困る”と注意された話などもされていて、より安全に、快適に過ごせるようにと行動したことであっても、医療職以外の方々の理解がなかなか得られず、思い通りにできないというやるせなさなども伝わってきました。

リハ職に関わった環境調整の中で、もうひとつ印象に残っているものは、杖立の作成です。生活不活発病の予防や参加者同士の交流のため、健康体操を行っていたそうなのですがその際に杖を置く場所がないことに作業療法士の先生が気づき、ペットボトルを切ったものを紐で椅子に括り付け、更にペットボトルのふちでケガをしないようテープで巻いた杖立を作成されていたという話を聞いていました。物資が限られた現場の中で、気遣いから作成された杖立は作業療法士の得意分野が発揮されていてかっこいいなと思いました。

実際に自分が住む場所で災害が起きると落ち着いて行動することはなかなか難しいと思います。

研修を通して、ひとりひとりが災害の知識を深めることも大切ですが、災害が起きた際に活動できる人材を育てることや、被災地で活動できるよう行政との連携、他職種との協力や情報共有が重要だということ学びました。

今回の研修会で学んだことを忘れず、災害意識を高めていきたいです。

第2報

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 (富山県介護実習・普及センター) を活用しよう

富山県介護ロボットサポーター 齋藤洋平、桐山由利子、渡邊雅行、野田理央、浜出都

富山県作業療法士会ニュース・きつときと第138回(令和3年度No.3)でお知らせしました第2弾です。

サンシップとやま2階にある富山県介護実習・普及センターでは、今年度も富山窓口として事業を展開しています。新たな事業として、県内の3施設へ業務アドバイザーと共に訪問・研修を行い、伴走支援を行うパッケージモデル事業を8月より実施されています。

また、『とやま健診プラザ』や『富山市保健所』などの場所へ出向いた出張・展示の機会として「介護ロボット・福祉用具展示会」が5回開催されています。とやま健診プラザの会場では、作業療法士のコーナーを設け作品の展示や販売などを行い、作業療法士のPRもさせていただきました。

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の内容は、相談・試用貸し出しです。施設に勤務される皆様には「介護ロボットを試しに使ってみませんか?」というパンフレットが送付されていると思います。

令和4年度は移乗支援14種、移動支援5種、排泄支援8種、見守り・コミュニケーション42種、入浴支援1種、介護業務支援1種の合計71種類の介護ロボットの試用貸出しが無料で行えます。有益で魅力的な機器が揃っています。実際に試用貸出しを行った施設のメンバーからは、「使ってみたく思う機種がたくさんあって迷ったが2種類を試すことができた」、「業者との交渉の手間が減った」などの声がありました。この機会に、是非、試用貸出しを試してみませんか?(この事業は単年で2月末までのため、ご注意ください。)

私たちは、介護ロボットの開発・実証・普及を通し、正しい介護ロボットの使い方や介護ロボットがもたらす良い効果、介護ロボットを活用した創造的な介護のあり方についても広く提言していきたいと、以前にもお知らせいたしました。

今、介護の現場では生産性向上の観点から、私たち専門職が多職種と協同して現場から発信していくチームワークを築き、その中でリーダーシップを発揮していく必要があるのではないかと考えます。

みなさんのお力を行動に変えて、是非、相談や試用をしてみてください。そして、介護ロボットをみなさんと活用し、作業療法や介護の質を高めていきましょう。

介護ロボット使用貸し出しページへのQRコード↓



介護ロボットの試用貸出リスト



介護ロボットの
詳細はこちらから
アクセスできます

試用貸出の
一覧はこちら

富山県介護実習普及センター [検索](#)

[介護ロボットの開発・実証・普及の
プラットフォーム](#)

[試用貸出](#)

[介護ロボットの試用貸出リストの
一覧はこちら \(PDF\)](#)

詳しくはホームページをご覧ください。
申込方法は裏面にございます

ロボット番号	会社名	ロボット名
A-01	CYBERDYNE 株式会社	HAL® 膝タイプ介護・自立支援用
A-02	ダイヤ工業株式会社	DARWING Hakobelude
A-03	株式会社ジェイテクト	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy (フレアリー)
A-04	株式会社加地	レイボエクソスケルトン
A-05	株式会社イノフィス	マッスルスーツEvery
A-06	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE
A-07	株式会社FUJI	移乗サポートロボットHug L1
A-08	株式会社FUJI	移乗サポートロボットHug T1
A-09	株式会社アイザック	移乗・移動ロボットKeipu-Sb
A-10	アイ・ソネックス株式会社	スカイリフト
A-11	アルジョ・ジャパン株式会社	サラフレックス
A-12	アルジョ・ジャパン株式会社	マキシムープ
A-13	アルジョ・ジャパン株式会社	マキシツイイン
A-14	株式会社あかね福祉	移乗用介護ロボット「移乗です」
B-01	パナソニック株式会社	Walk training robo
B-02	株式会社ジェイテクト	J-Walker テクテック
B-03	RT.ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカーRT.1
B-04	RT.ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカーRT.2
B-05	株式会社INOWA	体感型歩行自立支援システムArbre
C-01	トリプル・ダブルユー・ジャパン株式会社	排尿予測デバイス「DFree」
C-02	株式会社リリアム大塚	リリアムスポット2
C-03	富士フィルムメディカル株式会社	iViz air
C-04	アロン化成株式会社	水洗ポータブルトイレ キューレット
C-05	株式会社アム	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
C-06	株式会社キュラコジャパン	自動排泄処理装置 キュラコ
C-07	株式会社エフエージェイ	おむつモニターmini
C-08	新東工業株式会社	Aiserv® 排泄検知システム
D-01	エコナビスタ株式会社	ライフリズムナビ®+Dr.
D-02	コニカミノルタ株式会社	HitomeQケアサポート (ヒトメクケアサポート)
D-03	株式会社ツカモトコーポレーション	AlgoSleep 介護用見守りセンサー

ロボット番号	会社名	ロボット名
D-04	トーテックアメニティ株式会社	見守りライフ
D-05	キング通信工業株式会社	シルエット見守りセンサ
D-06	エイアイビューライフ株式会社	A.I.Viewlife
D-07	株式会社TAOS研究所	見守りセンサAiSleep
D-08	凸版印刷株式会社	SensingWave®介護・睡眠見守りシステム
D-09	リコージャパン株式会社	リコーみまもりベッドセンサーシステム
D-10	ノーリツプレジジョン株式会社	見守りシステムNeos+Care(ネオスケア)
D-11	株式会社Z-Works	ライブコネクト
D-12	コアフューテック株式会社	e 伝之介くん
D-13	フランスベッド株式会社	見守りケアシステムM2
D-14	株式会社AXIVE	CareVision (ケアビジョン)
D-15	株式会社エイビス	エイビスみまもりシステム
D-16	株式会社ソルクシース	見守り支援システム「いまイルモ」
D-17	バイオシルバー	aams.介護
D-18	ドーンコーラス合同会社	高齢者・障害者支援施設向け見守り支援システム「もりん2」
D-19	三昌商事株式会社	見守りシステム“CareBird”
D-20	加藤電機株式会社	見守りシステムSANフラワーXヘルシーライフ
D-21	株式会社ハビネスコーポレーション	lot見守りシステムHappiness 絆
D-22	シーホネンス株式会社	ベッド内蔵型見守りセンサー「サポート」搭載 Xシリーズ
D-23	株式会社インフィック・コミュニケーションズ	LASHIC-care (ラシクケア)
D-24	株式会社シンセイコーポレーション	Care-Top
D-25	株式会社 FEN	どこでもナースコール・見守りセンサー
D-26	積水化学工業株式会社	見守りセンサー「ANSIEL」
D-27	株式会社リンクジャパン	スマートナースコールBell (イーベル)
D-28	株式会社メディカルプロジェクト	シッタープロ
D-29	株式会社フューチャーリンク	Vital Beats 3in1
D-30	株式会社コンフォート	エンジェルアイ
D-31	株式会社 アルコ・イーエックス	ペイジェントウォッチャープラス
D-32	株式会社ヒート	みてるもんシリーズV2
D-33	竹中エンジニアリング株式会社	サーバー内蔵型見守りセンサー

ロボット番号	会社名	ロボット名
D-34	竹中エンジニアリング株式会社	ベッドモニターケア
D-35	株式会社トレイル	うららかに GPSウォーク
D-36	株式会社ZIPCARE	まもるへのHOME
D-37	株式会社ラムロック	みまもり CUBE
D-38	株式会社ラムロック	みまもり CUBE—システム Light—
D-39	富士ソフト株式会社	PALRO高齢者福祉施設向けモデルⅢ
D-40	株式会社レイトロン	音声認識コミュニケーションロボット「Chapit」(チャピット)
D-41	株式会社チカク	テレビ電話
D-42	株式会社メディカルスイッチ	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU助」
E-01	株式会社ハイレックスコーポレーション	バスアシスト
F-01	ジーコム株式会社	ココヘルバ

申込方法

当センターのホームページをご覧の上
試用貸出申込書をダウンロードしてください。

[富山県介護実習普及センター](#) [検索](#) [介護ロボットの開発・実証・普及の
プラットフォーム](#) [試用貸出](#)

ご利用方法

- 1 試用貸出申込書をダウンロード
試用貸出申込書はこちらをダウンロードしてください。
(Word)→
- 2 必要事項の記入・捺印します
- 3 下記まで申込書を郵送してください
【試用貸出申込書 送付先】
〒930-0094
富山県富山市安住町5-21
サンシップとやま2F
富山県介護実習・普及センターまで

(ご注意事項)
富山県介護実習・普及センターから貸出企業への取り次ぎ(2022年2月末まで)を行います。試用貸出期間については、施設側と貸出企業側の調整となります。
介護ロボットの開発・実証・普及プラットフォーム構築事業を利用した試用貸出において発生する事故、トラブル等に備えて民間の賠償責任保険への加入や使用状況の記録等の詳細について介護施設と貸出企業で直接決めていただきますようお願いいたします。

身体障害部会に参加して

身体障害部会 丸山 莉奈 (富山大学附属病院)



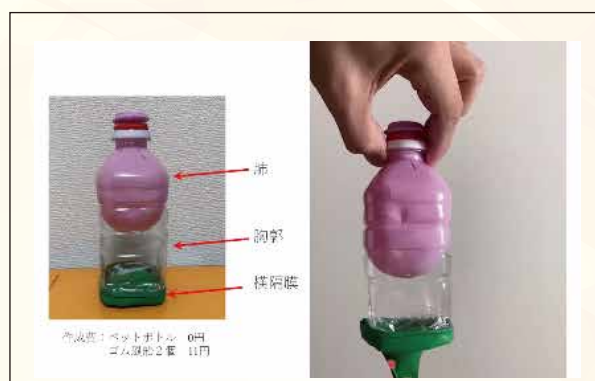
令和4年10月14日(金)、身体障害部会のZoomによるWeb研修会に参加させていただきました。富山大学附属病院リハビリテーション部理学療法士宮地竜也先生による「ゼロから学ぶ循環器疾患・呼吸器疾患に対する作業療法のリスク管理」というテーマの研修会でした。

今回の研修では、事例を用いながら講義していただき、バイタルサインだけに注目するのではなく、病態や自覚症状を確認すること、その患者様に応じて情報収集を行うこと、各学会が提示している基準に合わせて介入を行いことが大切であると学ぶことができました。

私は今年度から、作業療法士として働き始め、まだ循環器疾患・呼吸器疾患の患者様を担当することは多くありません。しかし、既往に心不全やCOPD等がある患者様を担当させていただくことがあり、リスク管理しながら介入しなければならないという指導を受けたことがあります。自分の

リスク管理ひとつで患者様の生活の質を変化させてしまうことがあるということを念頭に置きながら、リハビリを提供しなければならないと思いました。

今回の研修会を通して、循環器疾患・呼吸器疾患に対するリスク管理や情報収集を行う際に重要な項目を学ぶことができました。今回学んだことを今後の臨床へ活かしていきたいと思います。



障害老人部会研修会に参加して

障害老人部会 吉原 有佐 (友愛温泉病院)



「人が集えば揉め事が起こってしまう」本講義中に登場した言葉です。

信念対立とは、考え方が異なるために生じる確執のことです。自分と相手との「信念」が「対立」するので信念対立と言われます。そのような状況は個人のストレスとなるだけでなく、チーム医療の機能不全、ひいては対象者の不利益にもつながりかねません。このようなことを無くしていきましょうというのが信念対立解明アプローチです。今回の研修会では、信念対立解明アプローチの開発者である吉備国際大学教授の京極真先生にご講演をいただき、信念対立の概念とそれを解明する術を学習しました。

具体的には、傾聴・共感を基盤に①「状況」と「目的」を(再)確認する。②「状況」と「目的」を共有する。③「状況」と「目的」に応じて「方法」を活用する。その際、最重要視するのは「現象(≒事実)」であり、思い込みや感情調整のミス、責任追及などは阻害要因となる。状況と目的によっては、回避、服従など方法の選択肢を増やしそれらを駆使していくといった内容でした。

一見すると日々当たり前に行っていることのように思えますが、そこに明確な構造化や言語化が施されることにより、自らの行いや振る舞いを客観視することが可能となります。方法については即日利用ができ、明日からと言わずこの瞬間から自身のコミュニケーション技能を変化させること

ができます。何気ない事、よくある事だからこそ、何となくやらず的確に対応する。「凡事徹底」

「丁寧な対応」といった概念も信念対立解明アプローチには内包されているように感じました。

揉め事が起こりそうなとき、または起こってしまったときにどうするか。自分と相手の関係性や立場を考慮しながら状況・目的を明確にする。そして、客観的に冷静に感情を排して事実を見つめそれに対処していく。今回の研修で得られた知見を日々の業務に生活に生かしていきたいと思えます。

参加者は16名と多くはありませんでしたが、他職種や他部会所属の方、若手からベテランまで多様な方々が参加され、京極先生の軽快なトークも相俟って終始和やかな雰囲気での研修会となりました。2022年の終わりに良い学びの機会をいただけた気がしています。

京極真先生は、多数の研究論文や著書を執筆されているだけでなく、以前よりブログやYouTube、Twitter等において、作業療法や信念対立解明アプローチ、人生やお金についてまで、様々な内容のオンラインプロダクトも配信されています。さらに近頃ではThriver projectというオンライン教育プラットフォームを立ち上げられ、OTジャーナルにて連載を開始される等、非常に多岐に渡り活躍されています。ご興味のある方はぜひ。

施設紹介

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）高岡ふしき病院 関 奈那子

当院は令和4年国庫に指定された勝興寺から近く、平成26年に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）高岡ふしき病院として再スタートし、病床数120床（一般病棟60床、地域包括ケア病棟60床）の総合病院です。

リハビリテーション科は現在理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、リハビリ助手1名の合計11名のリハビリテーションスタッフで構成されています。少人数ではありますが、患者さんについての相談など気軽に話し合える雰囲気が強みだと思っています。リハビリ室では患者さんがリハビリテーションに専念できるような環境造りを心掛けており、挨拶や声掛けなどコミュニケーションを大切にしています。また病院内の環境整備や転倒・転落を防ぐ委員会活動に参加しており、リハビリの視点から対策等意見を求められることがあり、他職種との積極的な意見交換を行っています。

外来では糖尿病センター、物忘れ外来、便秘・過敏性大腸外来、摂食・嚥下外来、睡眠外来、リウマチ・膠原病外来、禁煙外来、健脚外来、予防接種外来があり、リハビリでは心臓リハビリテーション外来を週3回（月・水・木の午前のみ）取り組んでいます。心筋梗塞や狭心症、心臓手術後、心不全の患者さんに対して、運動療法を実施しながら自宅での運動や生活のアドバイスを行っています。通常では集団でのリハビリテーションを行っていますが、コロナ

禍のため感染対策に準じ、個別対応にて取り組んでいます。

また、当院の患者層の高齢化が進み、認知症の方の割合も増えてきているため、普段のリハビリテーションに加えて、日中の院内活動（集団体操・机上活動等）や認知症ラウンドを行っています。

今年からリハビリテーション器具も増え、エアロマグネティックバイクミニを導入しました。この器具はコンパクトで持ち運びも簡単なため、リハビリ室・病室・ダイルームどこでも行え、患者さんにもスタッフにも好評です。さらに、訪問リハビリにも力を入れており、伏木・太田地区近辺在住で、通院が困難な患者さんの自宅に伺い、退院後の自宅生活にも安心して生活していただけるようリハビリテーションを提供しています。

コロナ禍が続いており、リハビリテーション科も日々感染媒体にならないよう入院患者・外来患者のリハビリ時間を空ける、換気・消毒・こまめな手洗い等気をつけています。特に家族との面会が制限されている中、傾聴で不安を取り除き、安心して過ごして頂けるよう寄り添ったリハビリテーションを今後も取り組んでいきたいです。



会員リレーコラム



射水市民病院
米田 麗花

ケア病棟の方も担当させていただく機会があります。ご高齢の方も多く、入院される患者様の年齢層は80代～90代の方が多いです。認知症のある方も多く、個々に合わせた作業課題や認知課題の提供は難しいなと感じます。

また、急性期であるため患者様の状態把握が重要で、1年目の時より、患者様の検査(血液)

県士会の皆様こんにちは。真生会富山病院の竹田さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただきます射水市民病院の米田麗花です。作業療法士として勤務して2年目となります。竹田さんには私が学生時代の実習の際に大変お世話になりました。私は1年目より主に急性期病棟の患者様を担当させていただいていますが、地域包括

データ、服薬情報なども念頭に置きリハビリを介入することが非常に難しく日々苦勞していますが、作業療法士として専門性を活かしていきながらもリハビリテーションを提供するうえでリスク管理も徹底できるよう日々勉学に励みたいと思っています。

学生時代はアウトドアで友人とカフェなどへ行くことが楽しみでカフェ巡りをしていましたが、最近ではコロナ禍で外出の頻度が減少しました。自宅で過ごす時間が以前より増えていますが、動画配信サービスを利用し、映画鑑賞やドラマ鑑賞、また人気のアニメを見たりと

プライベートでも充実した時間を過ごせています。また、自然を楽しむことが好きなので春には桜、夏には海や公園、最近では紅葉やイチョウを見に行くことが多かったです。最近では寒くなり冬の時期に突入してきたので外出する機会も減りそうですが自分なりに楽しむ方法を見つけていきたいと思っています。



富山県リハビリテーション病院・子供支援センター

長江 和彦

また作業療法の世界でも、生活行為向上マネジメント(以下MTDLP)をはじめ、多くの時代の変化があったのではないかと感じています。作業モデルの普及が進み、以前よりもさらに対象者が健康で幸福な生活を送れるような介入が、論文や学会発表などで言語化されていったのではないと思います。

その中で、作業療法に関する学びも変化していったのではないのでしょうか。私自身、学生時代にはMTDLPはなく、協会の研修で学びました。しかし、今の学生さん達は授業の中でMTDLPを学び、スーパーバイザーもMTDLPに

就職してからこれまでを少し振り返ってみると、石川県から富山県の現職場に移ってきてから、約10年の月日が経ちました。その間プライベートでも子供が産まれ、生活の中で様々な作業バランスの変化を経験してきたと思います。

関する指導の形を指導者研修で学んで指導を行っています。日本に作業療法が持ち込まれてから、様々な歴史の変化がありながらも、現在の還元論と作業モデルが組み合わされた形を学生時分から学ぶ機会があり、羨ましい気持ちもあります。ちょうどご縁があり、学生さんに臨床における作業療法の実践を共有する機会がありました。「学生の時に聞きたかったなあ」と臨床に出てから感じた内容を意識しながら作成しました。作業科学やADOC、COPM、AMPSなどを用いた臨床実践を目を輝かせながら聞いている学生さん達を見ていると、これから出てくる後輩たちにより良い姿を見せられるように日々研鑽を行う必要性を改めて実感しました。「作業療法」というツールを用いて、対象者の方に「作業療法」を提供することで、多くの方が健康で幸福な生活を送ってもらえるよう頑張りたいと思います。



令和4年度 第5回理事会

日時：令和4年8月18日（木） 総会後
ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、桐山、島津、吉波、渡邊、大平、丁子、
安本、能登、中川、堀口、中山、塚田、水島、
森、小倉

欠席者：松岡

《報告事項》

1. 県士会関連事業
 - 1) リハビリ専門職協議会
 - ・ 8月2日開催。組織案について。拠出金について承認。
 - 2) 教育部
 - (1) 臨床実習指導者講習会
 - ・ 7月30日、31日 臨床実習指導者講習会。30名程度参加。
 - (2) 現職者研修
 - ・ 7月31日 20名参加。8月28日に4コマ開催予定。
 - (3) MTDLP基礎研修
 - ・ 8月21日 参加申し込み少なく延期し、秋に再度予定。
 - 3) 福利厚生部会
 - (1) オンライン新人交流会
 - ・ 9月24日開催予定。
 - (2) ほたるイカマラソンボランティア
 - ・ 10月9日開催予定。8月19日〆切。
 - 4) 普及指導部
 - (1) 介護ロボット。福祉用具展示会
 - ・ 9月1日(木)齋藤（ロボット担当）、野田（同）、神野（普及指導部）参加予定。
 - ・ 9月2日(金)渡邊（ロボット担当）、中村（普及指導部）、矢後病院作業療法士 参加予定。
 - (2) 高校生体験会
 - ・ 7月24日はオープンキャンパスと重なり1名のみ。
 - 5) 認知症委員会
 - ・ 事業報告
 - 6) 地域アドバイザー委員会
 - ・ 事業報告
 - 7) 災害リハ委員会
 - ・ JRATは委員にて協力
2. 富山県への対応
 - 1) とやま介護ロボット・ICT普及センター（仮称）設置検討委員会
 - ・ 8月24日 齋藤出席。資料添付
3. 東海北陸ブロック事業
 - 1) 東海北陸リーダー研修会

- ・ 10月22日 オンライン開催。9月24日〆切。5名推薦。
- ・ 推薦者（確定）：向氏（厚生連高岡病院）、河原氏（駅南あずさ病院）、吉原氏

4. 協会関連事業

- 1) 47委員会
 - ・ 9月10日オンライン開催。齋藤、水島理事、出席予定
- 2) 補装具費支給基準告示改定に向けた提案
 - ・ 桐山副会長にて対応、理事内より意見を収集し提出した。
- 3) 災害シミュレーション訓練
 - ・ 9月25日 開催予定。富山県士会も例年通り実施。

《検討事項》

- 1) MTDLP基礎研修
 - 受講者を募る対策（研修シラバス・修了名簿などの作成による受講の声掛け）を教育部で検討
- 2) 地域アドバイザー委員会
 - ・ 士会員OT部門代表者での意見交換会の企画検討継続
 - ・ 士会員および行政へ向けたアンケート実施・実施後の公開の検討、プレテストの検討継続
- 3) 福祉用具支援事業委員会
 - ・ 砺波地区からの委員を募集する（理事推薦 南砺中央病院 松本氏）
 - ・ 鹿兒島県作業療法学会での自助具作成研修に関するメーリングリストを用いた連絡の検討
→会員への有益なお知らせであり、承認
- 4) メーリングリストの用い方
 - 迷う情報については、理事会あるいは3役で検討、承認
- 5) Zoomの利用について
 - 6桁のパスワードが求められて入れないことがあり、対応窓口は島津氏とする。

令和4年度 第6回理事会

日時：令和4年9月15日(木)19時より
ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、渡邊、大平、安本、
能登、吉波、中川、堀口、中山、塚田、水島、
小倉、森

欠席者：丁子

《報告事項》

1. 県士会関連事業
 - 1) 教育部

■ 会員異動等

種別	氏名	所属	新（現）所属	備考
異動	森 伊津子	自宅	ソフィアメディ訪問看護ステーション射水サテライト高岡	
異動	藤永 賢人	駅南あずさ病院	訪問看護ステーション おうちへ帰ろう	
改姓	南 あずさ		かみいち総合病院	旧姓 黒田
退会	平井 幸代	医療法人真生会真生会富山病院		



PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー



どこでも
学べる



日本最大の
講師数



POINT 5

リハノメとは

「リハノメ」はPT・OT・STのための、
どこでも学べるオンラインセミナーサービスです。
臨床に悩むPT・OT・STのために、
各分野の専門家が臨床経験や研究成果に
基づいた知識・技術をお届けいたします。



オフライン
再生対応



定額見放題



31
配信スケジュール
随時公開

1ヶ月見放題プラン

通常料金 3,080円が初回限定で…

980円 (税込) お申込はこちら





作業療法士/
山梨リハビリテーション病院
リハビリテーション部 副部長 兼
作業療法課長
山本 伸一 先生



作業療法士 / 目白大学保健医療学部
作業療法学科 准教授
佐藤 彰紘 先生

豪華講師陣が
登壇!

法人様向けプランも
ご用意しております

株式会社 **gene** ジーン

〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1丁目 26-12 IKKO 新栄ビル6階

✉ seminar@gene-llc.jp

Tel.052-325-6611

ケアスタッフ、看護員向け
オンラインセミナー

ケアラ

ナースグディ

リハノメ
HPは
こちら



- (1) 現職者研修
 - ・ 8月28日 20名程度。4コマ実施。
 - ・ 10月30日選択研修(身障) 予定。事例検討会は、今年度2回予定。
 - 2) 福利厚生部会
 - (1) オンライン新人交流会
 - ・ 9月24日開催予定。理事、監事へ参加案内送付。
 - (2) ほたるイカマラソンボランティア
 - ・ 10月9日開催予定。8月19日〆切。参加者状況の確認。
 - 3) 普及指導部
 - (1) 介護ロボット。福祉用具展示会
 - ・ 9月1日(木)齋藤(ロボット担当)、野田(同)、神野(普及指導部)
 - ・ 9月2日(金)渡邊(ロボット担当)、中村(普及指導部)、飯野(矢後病院)

※渡邊理事より報告。今回、士会からの報償費、交通費等の支払なし。次回12月開催。
 - 4) 認知症委員会
 - ・ 9月17日 若年性認知症の本人と家族の会。
 - ・ OT協会ホームページに活動報告掲載
 - 5) 地域アドバイザー委員会
 - ・ 8月31日 NHKにてきとっぴダンス公開。ホームページにURLのみ掲載。
 - ・ 11月25日 地域アドバイザー基礎研修会実施予定
 - 6) 福祉用具
 - ・ 砺波地区の委員を加入、推薦。松本氏に飯田氏より依頼し内諾。
 - ・ 富山市より福祉用具の相談説明など希望あり了承。
2. 富山県事業への対応について
 - 1) とやま介護ロボット・ICT普及センター(仮称)設置検討委員会
 - ・ 9月27日(2回目) 齋藤出席。
 - 2) マハウノカガミプロジェクト
 - ・ 9月29日 午後 南砺市包括支援センター(齋藤、野田、渡邊出席)
 - 3) 介護ロボットアドバイザー会議
 - ・ 9月29日 13時30分 福寿会(齋藤出席)
 - 4) 福祉医療実現会議
 - ・ 9月1日予定であったが延期。
 3. 東海北陸ブロック事業
 - 1) 東海北陸リーダー研修会
 - ・ 10月22日 オンライン開催。9月24日〆切。5名推薦。
 - ・ 推薦者(確定): 向氏(厚生連高岡病院)リーダー、河原氏(駅南あずさ病院)、吉原氏、金川氏(魚津緑ヶ丘病院)、神野氏(南砺市民病院)
 4. 協会関連事業

賛助会員名簿 (順不同)

会員名(代表者)	住所
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (学長 米島 學)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 (理事長 大西 仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (理事長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目 4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279
株式会社 gene (代表取締役 張本 浩平)	〒461-0004 愛知県名古屋市中区 1-26-12 IKKO新栄ビル6階 TEL 052-325-6611
ライフ・クリエイト株式会社 (代表取締役 北野 満) リハビリ・デイサービスおやべ リハビリ・デイサービスたかおか リハビリ・デイサービスとなみ	〒932-0814 小矢部市赤倉207 TEL 0766-67-2001

理事会議事録

- 47委員会
 - 9月10日 オンライン開催。齋藤、水島理事、出席。水島理事より報告。次回12月開催。OT協会組織率と各都道府県の県士会会員入会・退会の状況と各都道府県の取り組みについての報告。今後、富山県士会も集計して、組織率を下げないための取り組み。2024年診療報酬改定について調査・アンケートなど実施予定。各ブロックからの提議について検討。協会5か年計画について。2026年協会=士会になるためのシステム調整必要等
- 災害シュミレーション訓練
 - 9月26日 開催予定。富山県士会はメーリングを用いて実施予定。

《検討事項》

- 倫理案件
 - メーリングとホームページにて掲載
- 前々回の理事会議案について
 - 協賛時の県士会ZOOMアカウント使用について確認
 - 県士会ML投稿規定について承認



編集後記

あけましておめでとうございます。今年は卯年です。卯は「家内安全」や「飛躍」「向上」を象徴する他、「植物の生長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年とされています。私は色々な人と、色々な場所を巡り、新しいことを始めるきっかけを見つけられる年にしたいと思います。皆様も今年は新しいことに挑戦してみてもは如何ですか。(O・H)

一般社団法人 富山県作業療法士会事務局より

メーリングリスト登録のお願い

現在、ホームページや施設宛での発送以外に、メーリングリストへ登録していただいた方に、多くの情報を配信しています。

今後さらに、メーリングを活用し、会員への情報の多くをメールを通じてお知らせしていきます。

■対象

一般社団法人 富山県作業療法士会会員

■配信内容

- 協会や県士会が主催する研修会等に関するお知らせ
- 作業療法に関する情報(制度改定や最新情報等)
- 災害時の緊急連絡や情報提供
- 協会や県士会からの事務的な連絡
- その他作業療法に有用な情報 等



富山県作業療法士会
会員ML(メーリングリスト)登録
<https://forms.gle/o9XmsZc8cK7yyG8XA>

